

令和7年度 蒲生中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評価の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
			国語	数学	国語	数学		
3 年 4月17日	学校	195	53	50	5.9	10.3	学校	491
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	212	66.0	57.2	57.6	48.3	49.8	4.5	4.4	9.0	7.9	7.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.5	11.0	8.0

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 蒲生中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率は53%で、全国と比較して1.3%下回る結果であったが、大阪市とは1.0%上回った。

平均無回答率は5.9%で、全国6.7%大阪市6.8%より良い結果であった。

[学習指導要領の内容より]

「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は47.7%で、全国と比較して0.4%話すこと・聞くこと」の領域は47.6%で、全国と比較して5.6%下回る結果であったが、大阪市と比較して3.1%下回る結果であった。

「書くこと」の領域は53.3%、全国と比較して0.5%、大阪市と比較して2.8%上回る結果であった。

「読むこと」の領域は61.0%で、全国と比較して1.3%、大阪市と比較して0.2%下回る結果であった。

＜数学＞ 平均正答率は50%で、全国と比較して1.7%、大阪市と比較して3%上回る結果であった。

平均無回答率は10.3%で、全国10.6%大阪市11.2%より良い結果であった。

[学習指導要領の領域より]

「数と式」の領域は44.9%で、全国と比較して1.4%、大阪市と比較して2.5ポイント上回る結果であった。

「図形」の領域は49.5%で、全国と比較して3.0%、大阪市と比較して3.3%上回る結果であった。

「関数」の領域は51.8%で、全国と比較して3.6%、大阪市と比較し5.5%上回る結果であった。

「データの活用」の領域は57.6%で、全国と比較して1%下回り、大阪市と比較して2.7%上回る結果であった。

＜理科＞ IRTバンドの割合は491ポイントで、全国と比較して12ポイント下回り、大阪市と比較して2ポイント上回る結果であった。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査において、基礎的な知識の定着をさらに図るとともにその知識を使って様々な問題に対応できるような授業改

善に取り組んでいきたい。国語においては、「話すこと・聞くこと」を中心に取り組んでいく。数学においては、「データの活用」の課題について取り組んでいく。

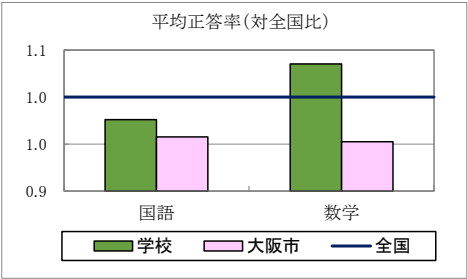
また、引き続き自己肯定感を高める成功体験を増やす取組みに取り組んでいく。

令和7年度 蒲生中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

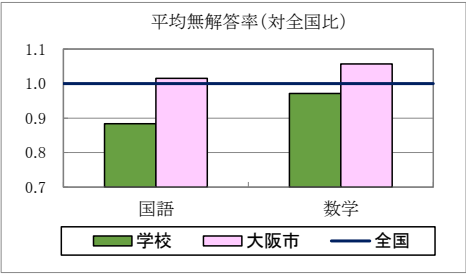
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	50
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

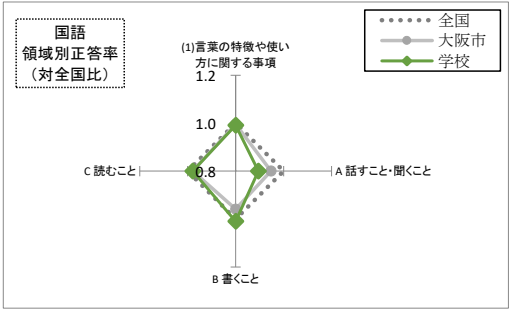
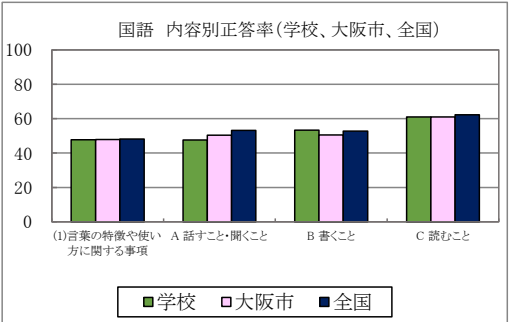


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	5.9	10.3
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



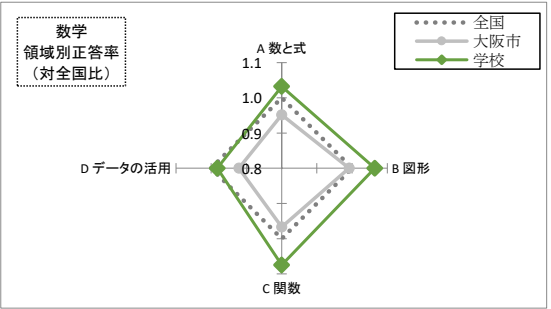
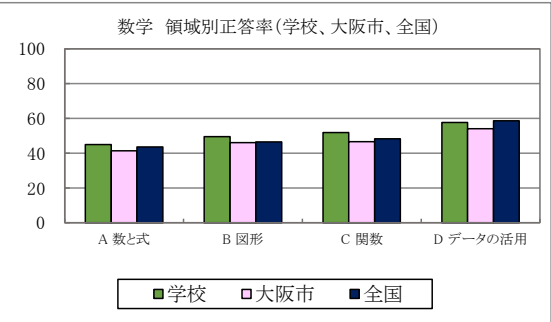
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	47.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	47.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	53.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	61.0	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	44.9	41.4	43.5
B 図形	4	49.5	46.1	46.5
C 関数	3	51.8	46.6	48.2
D データの活用	3	57.6	54.0	58.6

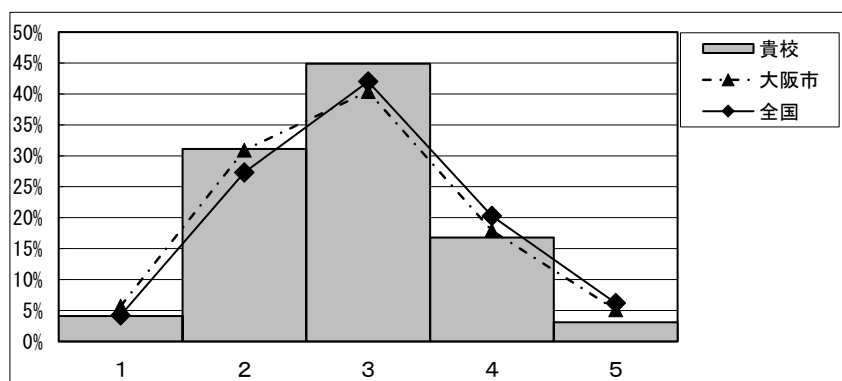
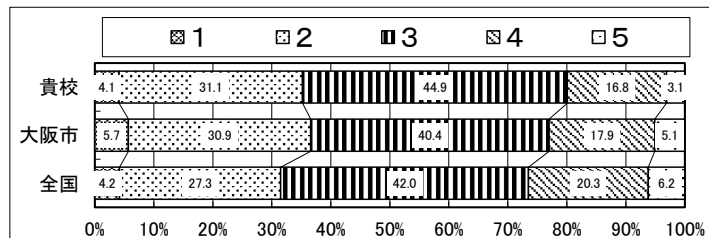


令和7年度 蒲生中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	491
大阪市	489
全国	503



令和7年度 蒲生中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

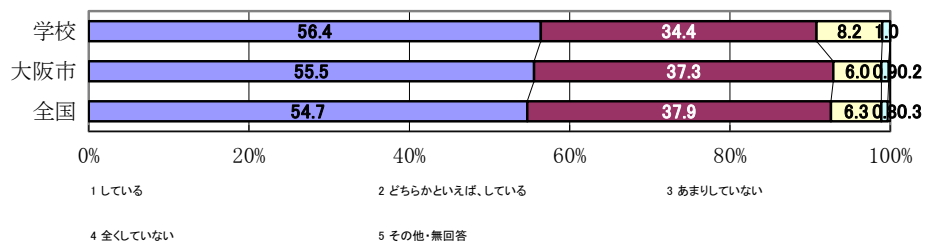
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

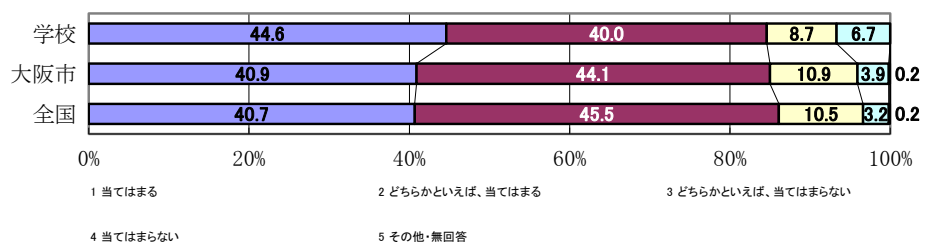
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



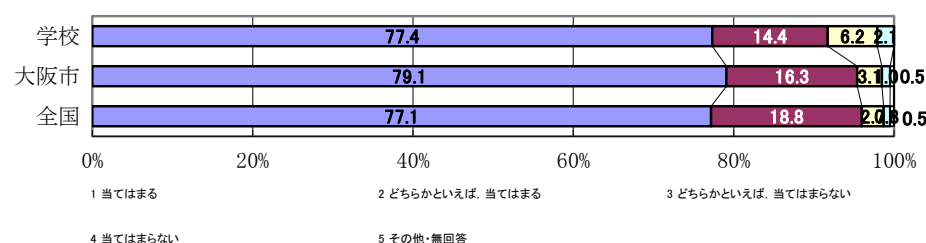
5

自分には、よいところがあると思いますか



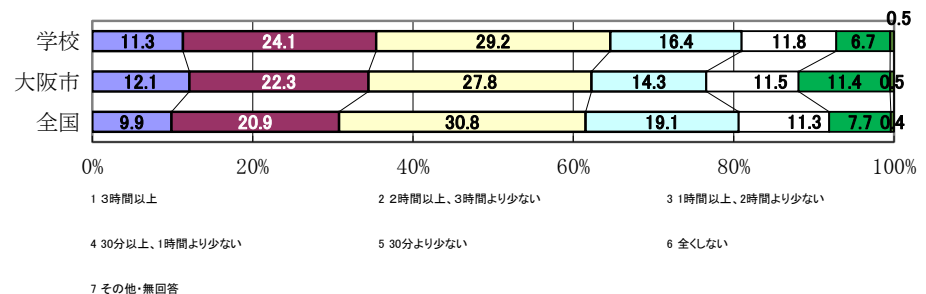
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



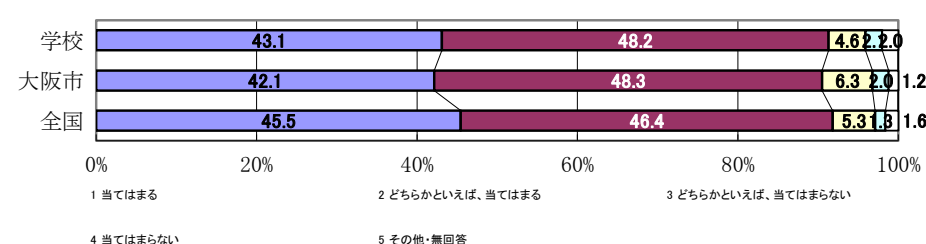
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



令和7年度 蒲生中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

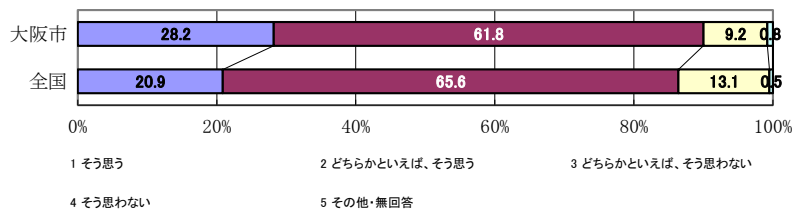
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

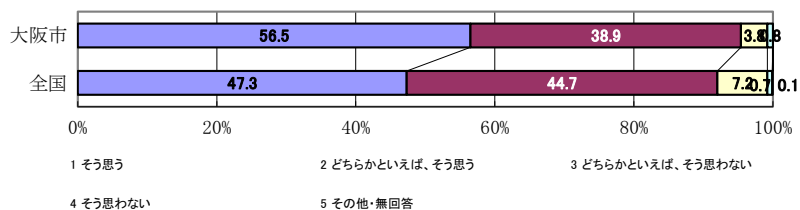
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

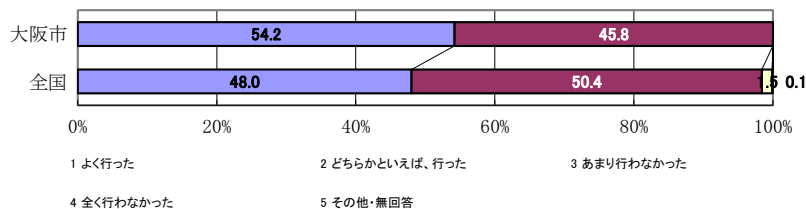
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

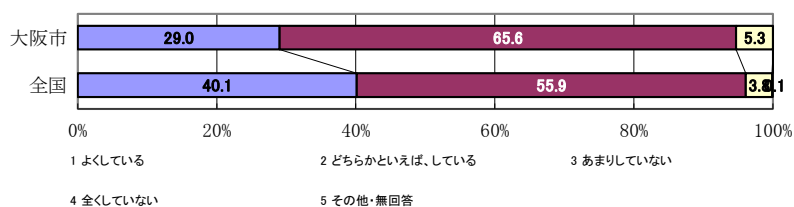
学校 「よく行った」を選択



15

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

